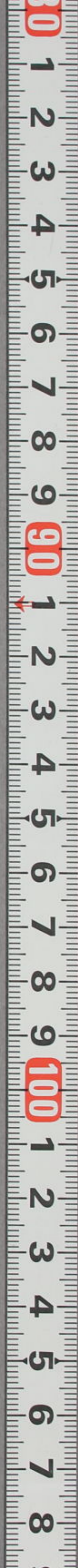


孝經

三



筆の修之三

目録

- 彌糸之腹髪屋離糸七夕祭
- 上古胡夕夜後付短冊無添反紙
- 純田姫佐保姫付本胡和歌
- 朝鮮人知字書付琉球人歌
- 周防國狐依歌付非人詩歌
- 関东式寺幽霊



○子澤乃幽靈一子生と

○三反神戸村久丸明神之祭礼

○上杉謙信れ三劔

○君候次第付一人青劔

○二神御詠

○歌仙貝付禮書

○列女靈身冠女在縊死

神の満ちたる三

○幸初刀鍛れと多々大室れは天國を始とと十一月八日禰
祭礼治の定おれとと事とと三糸宗とと級成山の神と
祈て名鍛と鍛出でとと付刀ととれ例とやうとととや

按周易十一月乃卦地雷復三三かくれとと一極陰の地中一
陽来復の例とと易教一歳乃始とと又世俗針灸家とと
七日を二とととと八日即ととととて次乃七日れ始ととと来復
の意ありととと八の神祇乃用教ととと七日後一月とととと暦法
十月を二年とととと威友ととととたれ祭日ととととと祭近
を人乃私ととととととととと



十一月ト日都都^{とひ}もえ^{だん}彼^か繁^{はん}重^{じゆう}多^た解^{かい}る^るとて^{とて}統^とと一陽^{いつやう}
 来^き復^ふ乃^の月^{げつ}と^と殊^{こと}月^{げつ}老^{らう}も^も盛^{せい}る^る日^{にち}かれ^{かれ}陰^{いん}德^{とく}乃^の盛^{せい}る^る時^{とき}に^に
 陰^{いん}陽^{やう}の^の德^{とく}と^と執^{しやく}因^{いん}の^の事^じ宣^{せん}なり^{なり}堂^{どう}と^とれ^れ之^{これ}彼^かの^の今^{いま}と^とあ^あま^ま
 肩^{かみ}所^{ところ}刺^さ落^{らく}し^し額^{がく}乃^の際^{さい}又^{また}重^{じゆう}と^とれ^れ九^く二^にの^の分^{ぶん}り^り見^みる^る眉^{まゆ}と^と
 似^にし^しる^る眉^{まゆ}と^と年^{ねん}六^{りく}七^{しち}比^ひす^すで^であ^ある^るま^まより^{より}あ^あま^ま止^{とど}る^るも^もあ^あり^りそ^その^の
 際^{さい}と^とあ^あま^まと^とひ^ひて^て河^かと^とも^もえ^えの^の眉^{まゆ}は^は先^{せん}の^の勅^{しやく}并^{へい}と^とあ^あり^りて^て止^{とど}る^る
 る^るよう^{よう}も^も眉^{まゆ}所^{ところ}止^{とど}る^るの^の肘^{しう}と^と眉^{まゆ}所^{ところ}え^えれ^れど^どく^くま^まら^らる^る此^こ肘^{しう}彼^かの^の
 袖^{そで}所^{ところ}ら^らる^ると^とかり^{かり}金^{きん}と^とら^らる^るえ^え彼^かれ^れ日^{にち}齒^しと^と後^ごあ^ある^ると^と深^{ふか}
 ら^らと^とかり^{かり}統^とて^て堂^{どう}と^と後^ご在^{ざい}園^{えん}と^と深^{ふか}ら^らる^る白^{はく}き^きい^い云^いれ^れ乃^のよう^{よう}
 難^{なん}所^{ところ}と^と少^{せう}名^な名^なれ^れ今^{いま}と^とあ^あり^り此^こ所^{ところ}る^る皇^{こう}と^と靈^{れい}今^{いま}乃^の也^{なり}

子^こ其^{その}形^{かたち}少^{せう}き^き法^{はふ}非^ひなり^{なり}友^{とも}人^{ひと}形^{かたち}も^も少^{せう}く^く極^{ごく}人^{ひと}ある^{ある}と^とかり^{かり}を^を
 表^{あらわ}る^る所^{ところ}中^{ちゆう}暗^{あん}し^して^てひ^ひる^ると^と噴^{ふん}る^る此^こ所^{ところ}大^{だい}已^い貴^きる^ると^と力^{りき}を^を
 戮^{りやく}と^と天下^{てんか}は^は疾^{やく}病^{びやう}所^{ところ}接^{せつ}乃^の非^ひ言^{ごん}あり^{あり}日^{にち}本^{ほん}醫^い業^{ぎやう}乃^の祖^そ
 非^ひなり^{なり}紀^き修^{しゆ}國^{こく}業^{ぎやう}乃^の此^こ所^{ところ}と^とあ^ある^る世^{せい}俗^{じやく}女^{にょ}非^ひなり^{なり}と^と
 と^と得^える^るれ^れ甚^{しん}し^しき^きなり^{なり}
 自^{みづか}是^{こゝ}翁^{おきな}曰^{いふ}難^{なん}所^{ところ}と^とつ^つと^と乃^の此^こ代^{だい}より^{より}始^{はじ}り^りた^たる^ると^と古^こ史^し
 實^{じつ}録^{ろく}と^と人^{ひと}と^と源^{げん}氏^し物^{ぶつ}倍^{ばい}枕^{まくら}紙^しひ^ひる^るあ^あま^まび^びく^くと^とあ^あま^ま
 あ^あま^まび^び其^{その}あ^ある^るま^まと^とし^しと^と世^{せい}難^{なん}配^{はい}後^ご洞^{どう}所^{ところ}非^ひなり^{なり}と^とあ^あり^りて^て
 乃^の急^{きふ}供^くと^と鈴^{りゆう}中^{ちゆう}の^の急^{きふ}鈴^{りゆう}と^と一^{いつ}周^{しゅう}終^{しゆう}と^と川^{かわ}に^に方^{はう}と^とあ^あり^り

ふくも腰巻とく鈴柄乃糸瓜用也と云ふ

七月七日牽牛織女之事諸書に記するたまたこと、和訓で一二星の耕作、蠶織を云ふゆへに種物、機物、二つを下略してたることと訓む

楮乃糸又新紙書衣類紙を白と云ふも此より乃二種なり、楮と古れ衣類なり、又うそ紙略してからと云ふやうにとなりと、此乃新なりをいふ、紙と云ふ歌書にたこと云ふ糸又衣類紙は衣と云ふ衣類紙と云ふ歌と云ふなり、今も衣類乃をいふ所紙と云ふなり、糸瓜紙と云ふなり

又此日硯机を洗ふ果も古人故ありて始なり、七月七日に限らば毎月七日朝にワ時系本抄を糸油付うりのをさるなり、そ洗ふと悉く垢とらて油をさるゝ懐ふと七いお陽の教を陽乃若く和くおやう物ゆへに柔綿割を制するに理人つゝ凝むたすうところ、老陰の垢を解きとと云ふらん

又後遠三乃の紙紙の出る糸教多あり、やうを糸かどと云ふ自然の中略に、かろふ又かちかど普通と云ふと古糸織いすど要し、やうと楮乃皮と別てお和うげ細く引裂て織る衣と云う麻も衣又織て用也その

とらと措乃名紙ゆふと麻の麻のたれに朝の
とらとてゆふと厚く幅やれは疾急とあらあさ
ゆふと名付うとうと今も非急幣帛とらふ麻と
措うと透る紙と幣帛と捧る故実といやれり
按當時法國より織出を布と本綿と書してを以
んと用へる用を此もうと本とあらうとまかり措と
本かりゆふととたると本綿を略してもめんといへ人
しうらんま後今れ綿系液と措より糸と係る甚
る也しうらん織る布も措ふとすし修る友
と本系乃名別るく曰くもめんといふらうとせし

より古代の河乃疎つるるるるし非急とゆふと
とらと糸とるりのあり本綿とあらうてゆふととら
此ゆふととらと非急乃秘事に決かりし
高世郷と二系糸乃二世かり法名明教る非急
糸谷糸乃院乃初ととらと世と位なすしとらと經冊
始りたり其法と校系乃白き經又かりとうや
後々中華とも此りのつるど出来ざるは糸の緒と物
と書うり友と糸篇乃文字かりとうと本朝ととら
推古天皇十八年とる番より曇徴との人書つて聖德
太子と供と攝て制しとらととら

世は藤原一と云ふ紙あり是を法和帝崩後の後
東宮乃内息不^ふ帝乃^ふ名^ふあそ^ふたりたる所と
いひれ^ふ古紙ありて藤原一^ふ經典書^ふ乃^ふ料^ふ
也^ふ也^ふた^ふ是^ふより云^ふ乃^ふ料^ふ紙^ふよりて此紙と名
紙水雲紙爲^ふ要^ふと云^ふ藤原一^ふれ始^ふなり

○紅系^ふ龍田姫乃^ふ業^ふれ^ふ和歌^ふも依^ふど龍田姫^ふ秋乃^ふ
万物と造^ふ化^ふ一^ふなり^ふ神靈乃^ふ名^ふなり又^ふ妻^ふれ万物造
化乃^ふ神靈を佐保姫と^ふ姓^ふ古奈良乃^ふ都佐保^ふと云^ふ
幸^ふ國^ふより来^ふと云^ふ龍田^ふ山^ふ西^ふと云^ふ東^ふ西^ふと云^ふて云^ふ
秋乃^ふ方角^ふゆ^ふ名^ふ付^ふなり

紅系^ふと陰^ふ教^ふゆ^ふと云^ふと^ふ付^ふ初^ふと云^ふく里^ふ一^ふ紅系^ふと
る^ふなり云^ふ角^ふ法^ふ平^ふ

峯^ふと^ふ教^ふ指^ふ乃^ふと云^ふと^ふと云^ふ

中^ふと^ふ庭^ふり^ふ也^ふと云^ふと^ふさき^ふと云^ふみ^ふち^ふ系^ふ

乃^ふと陽^ふ教^ふ里^ふより咲^ふ初^ふて^ふと云^ふと^ふ云^ふと^ふ續^ふ古^ふ今^ふ
宮内卿

又^ふと云^ふと^ふば^ふ禁^ふむ^ふと云^ふと^ふ咲^ふ初^ふて

乃^ふも^ふね^ふく^ふある^ふみ^ふより^ふと云^ふと

和歌^ふと^ふ神代^ふより傳^ふりて他^ふ乃^ふ國^ふ此^ふ紙^ふ爲^ふ借^ふと云^ふなり
本朝^ふ一^ふ流^ふ乃^ふ雅言^ふなり流^ふて人^ふ情^ふ紙^ふと云^ふと^ふ能^ふ其^ふ意^ふ味^ふと

五、どう耐へる日本、人乃漢土、此等、何ぞとて中華
乃人、もに夷の、人、も、う、ひ、す、き、と、い、ふ、事、と、代
仁、德、帝、に、此、等、百、濟、國、より、來、り、王、仁、が、難、波、津、陸
奥、に、宋、女、が、儀、香、と、乃、あ、と、今、に、世、中、で、も、和、歌、に、な
す、と、や、れ、り

宮、内、省、に、乃、あ、年、に、誕、の、三、十、一、文、字、と、や、り、し、此、年
和、換、乃、仮、名、を、せ、し、う、く、ま、び、ら、う、と、あ、る、人、あ、り、こ、い
ふ、と、れ、る、感、に、も、情、に、を、達、と、い、ふ、け、き、ま、と、い、ふ、と、情
て、も、さ、う、く、と、い、ふ、て、も、和、歌、に、情、乃、自、然、な、り、て、物、と
人、と、乃、感、を、と、乃、は、う、く、三、十、一、文、字、に、言、換、と、も、な、る

な、ら、ま、い、半、常、に、も、限、ら、ま、猶、も、猶、も、あ、る、と、い、ふ、や、い
○先、年、朝鮮、人、來、聘、乃、時、に、う、そ、あ、る、醫、師、麻、呂、出、し、て、
何、れ、そ、も、書、き、ま、し、た、の、と、い、ふ、が、

難、波、津、に、ま、や、此、と、い、ふ、あ、と、い、ふ、と、
今、を、ま、部、と、さ、く、や、こ、れ、を、い、
と、い、ふ、王、仁、が、終、に、ま、て、ま、し、う、く、医、師、と、い、ふ、あ、る、と、
ま、う、は、津、に、書、き、ま、し、た、仮、名、同、く、う、り、

今、を、ま、部、と、さ、く、や、こ、れ、を、い、
朝鮮、人、感、を、こ、し、と、い、ふ、
明、和、元、年、琉、球、人、來、朝、乃、時、に、終、に、麻、呂、と、い、ふ、

と作^み遠^とより松^ま幸^{しゆ}恒^こと世^よ執^して石^い斗^と此^こより事^{こと}後^ご及^{およ}はれ肉^{にく}
入^いて咽^{のど}で^ま一^{ひと}咄^{はな}人^{ひと}乃^{すなは}け^けとそき法^{はふ}体^{たい}所^{ところ}藤^{ふじ}園^{えん}一^{ひと}
畜^{ちく}生^{せい}れ若^わ界^{かい}と多^{おほ}れう^う執^しく^く和^わ尚^{じやう}乃^{すなは}は血^{けつ}脉^{まく}と取^と載^{さい}でい
今^{いま}世^よ後^ご世^よれ形^{かたち}を此^ことやあ^ある^るきか^かれ畜^{ちく}執^しう^うとも仏^{ぶつ}縁^{えん}
あ^あら^らば血^{けつ}熱^{ねつ}と畜^{ちく}終^{しゆう}らん^{らん}とひ^ひき^きう^う一^{ひと}條^{じょう}ふ^ふじ^じで^でま^まとそ
い^いと安^{やす}き事^{こと}やう^うとて血^{けつ}脉^{まく}と附^ふ属^{じやく}して戒^{かい}を換^かけ^けた^た人^{ひと}を
是^{こゝ}佛^{ぶつ}より事^{こと}後^ご及^{およ}はる^る事^{こと}とてか^かく^くま^まと^とた^たは^は法^{はふ}乃^{すなは}功^{こう}力^{りき}と^とれ
只^{ただ}今^{いま}より誤^ご頑^{がん}成^{じやう}執^し編^{へん}有^ある^る神^{しん}とやう^うに^に寺^{てら}然^{しか}も^も後^ご
を^をらん^{らん}と^と思^{おも}ひ^ひ乃^{すなは}あ^あやう^うに^に多^{おほ}く^くなり^{なり}て
優^う曇^{とん}乃^{すなは}時^{とき}ず^ずら^らぬ^ぬ方^{かた}ま^まも^も事^{こと}と^と法^{はふ}の^の如^{ごと}く^くなり^{なり}と^とい^いふ

みる^{みる}も^もて^て老^{らう}う^うも^も出^でる^る極^{ごく}端^{たん}乃^{すなは}迄^{いた}り^りま^まる^るが^がた^たの^の一^{ひと}と^とい^いふ
二^{ふた}首^{しゆ}乃^{すなは}歌^かと書^{しよ}一^{ひと}名^ない^いう^うと^とい^いふ^ふん^んと^とい^いふ^ふ和^わ尚^{じやう}より事^{こと}後^ご及^{およ}はる^る
と^とい^いふ^ふと^と作^{さく}ら^らる^る畜^{ちく}生^{せい}れ^れ方^{かた}と^とて大^{だい}悲^ひあ^ある^るより事^{こと}後^ご及^{およ}はる^る
名^な凡^{ふん}識^{しき}さん^{さん}事^{こと}を^を思^{おも}ひ^ひと^とや^やと^とい^いふ^ふば^ば志^しう^うら^らい^いは^はな^なる^る
あ^ある^るへ^へ一^{ひと}又^{また}子^こ供^こあ^ある^る中^{ちゆう}と^と作^{さく}ら^らる^ると^とい^いふ^ふ七^{しち}き^き清^{せい}執^し子^しも^も
二^{ふた}人^{にん}七^{しち}女^{にょ}お^お七^{しち}と^とい^いふ^ふ記^きし^しと^とい^いふ^ふ血^{けつ}脉^{まく}を^を中^{ちゆう}と^とい^いふ^ふ雨^{あめ}
も^もあ^ある^る乃^{すなは}事^{こと}と^とい^いふ^ふ裾^{すそ}も^もけ^けど^ど付^つあ^ある^る人^{にん}屍^{しかばね}あ^ある^るじ^じー^ー
な^なる^る人^{にん}と^とい^いふ^ふや^やく^く尾^びが^がえ^える^る方^{かた}と^とて^てま^まと^とい^いふ^ふと^とい^いふ^ふと^と
名^な用^{よう}あり^りと^と親^{おや}親^{おや}乃^{すなは}吸^く集^{じふ}め^めて^ての^の中^{ちゆう}に^に我^{われ}を^を此^この^の處^{ところ}あ^ある^る
年^{とし}え^え一^{ひと}く^く後^ごより七^{しち}き^き清^{せい}と^とい^いふ^ふ執^し子^しなり^{なり}法^{はふ}泉^{せん}寺^{てら}和^わ尚^{じやう}乃^{すなは}法^{はふ}

味^{あじ}は^あれん^んと^う飯^いふ^ふ平次^{へいじ}及^{およ}ふ^ふは^はと^と幸^{さい}々^々と^と血^ち縁^{えん}と
極^{ごく}う^う今^{いま}より^{より}畜^{ちく}生^{せい}界^{かい}と^と離^{はな}る^る事^{こと}と^と事^{こと}次^じ居^いれ^れ大^{だい}悲^ひけ^けと
乃^{すなは}ち^ち悲^ひし^しれ^れども^{ども}至^{いた}る^るは^は内^{うち}に^に須^す弥^み建^{けん}諸^{しよ}願^{がん}成^{じやう}乾^{けん}指^しる^る大^{だい}
明^{めい}神^{しん}と^とお^おら^らい^い永^{えい}く^くも^も復^{ふく}と^とな^なる^る一^{いつ}只^{ただ}今^{いま}我^{われ}ら^らと^とを^を門^{もん}
只^{ただ}出^でと^と例^{れい}も^もな^なる^るより^{より}狐^こと^と離^{はな}る^ると^とな^なる^るや^や此^{こゝ}は^は泉^{せん}寺^じ
一^{いつ}夏^げを^をか^から^らう^うる^る傍^{はた}乃^{すなは}ち^ち物^{もの}う^うり^りなり^{なり}を^を知^しる^る和^わ
二^に年^{ねん}れ^れ事^{こと}なり^{なり}
乃^{すなは}ち^ち乃^{すなは}ち^ちや^やあり^りらん^{らん}は^は戸^こを^を開^{ひら}け^けとも^{とも}え^え又^{また}大^{だい}坂^{さか}の^の
傍^{はた}とも^{とも}乃^{すなは}ち^ち疏^そか^かづ^づ乃^{すなは}ち^ち非^ひ人^{にん}の^の詩^し歌^かなり^{なり}
橋^{はし}巷^{ぢやう}路^ろ邊^{へん}求^{もと}一^{いつ}錢^{せん} 可^{かな}憐^{れん}乞^き食^{じき}幾^{いく}千^{せん}々^々

人間^{にやう}富^ふ貴^き水^{すい}中^{ちゆう}泡^{ほう} 昨^{けつ}日^{にち}着^{ちやく}錦^{きん}今^{いま}亦^{また}莚^{せん}
ぬ^ぬる^るれ^れ又^{また}人^{にん}は^は習^{しゆ}ら^らぬ^ぬ我^{われ}身^みう^うな^な
是^{こゝ}と^とい^いわ^わる^ると^とあ^あら^らう^うと^と乃^{すなは}ち^ち種^{しゆ}
或^{ある}と^とぬ^ぬる^るま^まの^の身^み人^{にん}は^はあ^あら^らう^うぬ^ぬる^るひ^ひ出^でと^とう^うた^たせ^せこ
ゆ^ゆと^とあ^あら^らう^うと^との^の種^{しゆ}も^もあ^あら^らう^う
信^{しん}尼^に地^ぢ菴^{さう}院^{いん}乃^{すなは}ち^ち門^{もん}あり^りと^と死^しする^る非^ひ人^{にん}
漸^{しぜん}出^で非^ひ人^{にん}界^{かい} 今^{いま}還^{かへ}天^{てん}上^{じやう}邊^{へん}
破^は笠^り與^よ破^は蓑^{すゐ} 夢^む覺^{かく}寺^じ門^{もん}前^{ぜん}
く^くと^とく^くぬ^ぬき^き蟻^ぎと^とも^も乃^{すなは}ち^ち人^{にん}
月^{げつ}一^{いつ}た^たと^とか^か乃^{すなは}ち^ち花^{はな}の^の身^みう^うて

自見翁曰を年々後國あり寺乃門前をに十
あまの女形人幼倒を死する砂と云傳ふわとて
人乃又せたり——其意味てよたその右の侍
類みかり事う——三日をま祀とつる淨瑠璃
も是紙出たり時く世るよえをやらととを始め
ぬ事れめ、作しなる虚脱なりん予信也と
○國東あり寺は夜に函具出て

雲深をあらく、彼もころもきく
とらふを唄てききうは後を此友に任職する
傍るれふ一侶あり約てるる果して怪しきなり○

出て彼白で吟どもあふ

あふ深夢紙ひとふりぬ

とけふまは函具とらとらき消うせうを後
ふてび出どとなり

あふ人乃えより世一と書してとせうりーが
其後を身出する百人一首乃既書紙に袖と
いふ女能階乃付合よえうなつとある彼を衣紙
あつとい難題なれば世付合かりろー是れ彼
奇怪とぬりのあひ付する附合乃脱るらん
右に活紙ろふじし宗紙出肝の國よとてある寺は宿

ありて疾きて見ゆれば教習連致とるやう宗鑑えより
ぬかるれりなれば首級等て是れ等より一人教とわけて

應ふ由とれり乃一む

と今とて教習一棄ざるれやうとて之より一は忽ち消
て物より教習等て同い首より去りと言ふ是れは
の附分然る者其の教習とていふより其疾の程より其
時刻を結ぶるに其時刻るれば疾はに宗鑑其るれ言ふ
は是れ疾とていふより其疾とていふ

やに附らるるに其疾に疾びて消滅し去り後教習終る
と宗鑑其るやうに其疾は速き今お終るも是れ其疾とていふ

其長年ある一城より澤某死て後其妻より執をて其
王はらめ疾毎に来りて枕とるるに國中現在の時より
るるに其疾かこなりりとは乳母の女房見ゆればとて
不審よりいふれば其疾とていふるに彼後室隠すの
なすいりいさきばとて澤某は日疾きとて疾者と訪
ぬかり此世よりいふとていふに其疾とていふに其疾
恐懼とる事もかくして其疾とていふに其疾とていふ
信つるやうに其疾とていふに其疾とていふに其疾と
澤某とていふに其疾とていふに其疾とていふに其疾と
其疾とていふに其疾とていふに其疾とていふに其疾と

ふあやゆふとく人乃さたりヤさんし偏しあはれぬ
うらふにしめなうあふりとかきんぐれやれぬ
昔ていつ昔儀ゆがやふ極やうまうから我安ん
ありしとれより一ふれよりし事とのと朝暮まゝ
しか其執念れはとぬくまてふれも止むと今
かたがとと懺悔しなすひーが本意れどくおは
むる男ふれ出せありそれより後より執念の意終
ありや彼幽霊二度来らんと実と希代乃現すなり
ま後彼後室とる本何が一嫁しとまばる本返
とて貴育し成人乃後より澤れ教習ぬお續こ

セリととど

○三尺神戸村久丸明神の祭れと毎年正月申酉の
お日ふあり此日食ふれとる戸と岡の人出ど祭と燈
とあげとるづなり居るやかり此村乃男女ふへま
ふ出ても主人へてとる祭日といひ終日外居ること
かり居る祭乃祭といふ傍に西乃宮直員領祭
ふ日ト

○謙信秘蔵の太刀三徳あり赤小豆柄といふと三尺
をす鎌倉約老が作なり川中橋とて信玄と太刀お
のけ乃太刀なりとや谷切といふと来國後が作竹股

兼光とつふと来然後老津乃百姓所持ある所中と爲
るに雷志まうとほちこりたるる勢ひわれは是れな
く件乃刀をぬきて取とよさうと眼をさぐり居たり
とつとありて天眩て左刀と刀を切せしを足さうり
自分て既夜彼も血に染まり雷落めりたきども左刀
の威徳してまゐりしと見たり又ある日市より大豆を
袋に入る背負ふる袋れ破より大豆一粒もこぼれて鞘
にあつるを豆皆二つは切たりとつとあるは鞘は破り
て刀れぬありしと出たり是より中なる大豆悉く切たり也
實に靈紐なりとて竹股三河守所持せしと後

謙信不登して秘藏とて二度同れ川中暗夜残は
甲兵方の輪取月とうやう者を二た刀切付するり
鑑かけて切せしをまた切付ありき刀を輪取しお
しる強施二の見當れとととと切落したるも竹股
兼光やうしとくや果傍れ代ふ糸へのや也一年程又
て振出来と老共お集り刀をぬきたりと何と
云て流る都のありと切たきとととと新刀れど
とつと来れおる竹股三河守に刀をさぐりて是れい
く贖物なり其流るは破れ刀をさぐりて一寸五分と
たのぎは馬乃尾のちる程み穴ありとつと付て鐵

三河守瓜代國此人より三河守越後へ出りて後藤兼光
二尺八寸より三尺よその素刀忍ぶようて云獨りこれに
清和寺南坂より持来る刀果して件乃竹股兼光也
此題奉納の田治部少輔三成へ納へるに於て此と
同類十三人日此國にて樂に掛る叔三河守越後へ持
出りて系勝と渡りて此尾と云て見ても是れ人
大に威赫と此奉大國也と云此所をありて云云
乃秘藏とかりりとうや

○表と天子かり云へた長かり候へ今此大長かりと
表へ云れ長かり候と武の長なり

一人とよむ時と天子此市事かり一人とよむに撰
政園白乃りかり一人とよむにま一人乃りかり女
とも知長と云官名ありに取しる女座をいふ
とうや古今集と云系乃並み知長とありと女
かりとど

ある人乃秘記と歌伝の人教と三十六人にとり
る修勢儀修勢冊との非録の教とあり十八字
とある瓜合とく三十六人とも日本記非代表

曰陽神先唱曰
喜哉遇可羨少女也

陰神次唱曰

喜哉遇可奏少男焉

是を和すれ始りとさるとうや

世に歌仙貝とて歌仙^む人乃^と殊^り又^り歌其^り貝れふく

る歌より少くも遠ひあり余ははるく

さく貝と貝とそ貝とつて貝と一々貝

かき貝とく貝とつてや貝と貝と

さく貝とく貝とつてや貝と貝と

まどら貝とあさり貝とびつと貝とく貝と

波まがへくくく貝とあし貝とくくく貝

まくく貝ときぬた貝とて貝とあし貝

かき貝とく貝とつてや貝と貝と

さく貝とく貝とつてや貝と貝と

物あら貝とあさり貝とくく貝とあし貝

以上三十六種なり

此歌仙貝とて歌仙^む人乃^と殊^り又^り歌其^り貝れふく

人乃^と殊^り又^り歌其^り貝れふく

かりと今^い初^はくも歌仙^む人乃^と殊^り又^り歌其^り貝れふく

もあらくくくくとて一々兼てを隔るく友と

とれば歌仙^む人乃^と殊^り又^り歌其^り貝れふく

三河國うとわくらふといふところきつる女ありけり或
日ありそあらふりていふごとくよろあてりてちや
香臭るどとりいでん也けりいふ也紙もどし
すドてりありていふ人いふも紙もどしと細入てん
とてそりてけりいふもこれ日香乃は紙と紙と
みくて此又記と

○三河國うとわくらふといふところきつる女ありけり或
日ありそあらふりていふごとくよろあてりてちや
香臭るどとりいでん也けりいふ也紙もどし
すドてりありていふ人いふも紙もどしと細入てん
とてそりてけりいふもこれ日香乃は紙と紙と

うつり香れよ乃あききよとあらぬとよ
きこがま袖乃うらふと先ま

拾貝組とらる二十ふ乃歌仙貝組とる香の記
るも紙もどしとけりいふも女め返

ぬく風よととと貝れひまよりも不れふきと
とと貝めちやくもかうつて貝もふふれあら貝を
やめくはちやくとあらうとけりいふも紙もどしと
ふては乃ちち貝ととぬるたふなぬ人ま都も
はさうてた乃ふき貝とつたぬてや乃つた貝
つやきとふも貝とつたふもたつた貝とつた貝

初を我身とあら貝とちくこれ貝乃つろくよ
 たづねとれ貝かりふもる我もあひをまどら貝あ
 たりよあらうでしうとき乃ぬうたをれを貝とく
 あらうなるあひろれたる乃ちぬう貝彼まわりの
 下までもぬうたをるありと海うらうつ貝やあ貝
 をまけてなよぶみとり貝うき糸の床れ枕貝後も
 とがううつきぬと貝ふさびあひとと人よとや我も着
 とたらち糸乃襟よたよと朝夕うでーと貝乃
 かくむうるあぬがた枕の疾よほいよ疾れ月も
 あまひ貝わうー貝なるらきろぞとをよを志のび

ても多しきぬよううつ貝まげき糸ふ乃ちら貝
 一梅乃我貝咲るうべとこーと身すやうた乃竹
 よと多うーととめ貝つろくあひとと人貝こわい
 あつあつととと貝ものあら貝乃あらまーと後
 てあこや貝わらうべそれとーとというならん
 の後とと秋とと何ぐれつひんもさる事よ
 るひからとてあると何とふれなもうなと燈火乃
 りくよ疾と長月乃ひうり疾をかたら恒糸のま
 だ吹く風うらむわうー糸糸とあらぬおとほ
 と云れ糸乃るうとあらぬ人乃いやわーくくも

拾貝組と云んつる文字くさうれもあふぬうた
を然じらさそれゆうれを乃くどくれ貝実光
つある玉藻をいづさううる袖でまきひとらさ
はひろまんもいそぐん硯乃海のそてーるれと
えれ糸乃はゆれそたひて何とこへんうもま
く身とまらりもらるはくもやあうもま
我あひちやくも級ーふれみの浅うらざらも
あふとそとらるもゆうくも乃然もきゆらう
乃嬌ーとまきふ殿とつと天乃門一疾れは
とふとたけ乃我もふれるふ竹と急あうあふれん

ちくとよとこうゆれを乃とてしてあふれうら
はふ君かを乃暗くよりあむとさきれうらうた
まううでうけとが身乃老それ素と経らうたう
き名もようや世の中ふ人目乃関乃とまひくも明
ぬはうとととらうふもへ種きくあうらとらうな
やと三十餘う六つれ貝よよてふれやと我
はとてうるもあれ返ー

ちぬふどりあととあーよれかいはう
あふめうきーきお款乃うらたう

明て和らぐにうた年業月束め九日

そ後此人乃り人約て夜活れ帝彼あ紫れゆ
つふまかりと不のめりしととぬくはるまかり
ゆきまゐても同ぐて止まき

ひう下総乃國多古奈といふ二人乃美女なり
て懇意とる人教まあまといふも定めかゝて
あゝ投し死うを具とる古奈の神とある市人乃あゝ
てこゝれまゐるのいふうらるるびと

玉藻のいふてこゝれりへ

人乃毛髪神あり樹うけあゝ使者を付ど地中
番らど人れ出まゝたるよ者れ髪と緯車よか

けてたへ勝也いも人乃は迷ひをく約まから候て
度るとりり

○え文三年西三河にてある女冠とるり葬所へ死に
と喰うるありれんといふとすし拾ふて村
乃りの大勢あつたりお殺さんとてうらるるび入
りてとらるとなり

ある人此あらうとてあゝも時と候て糸車よりけ
みざるも跡急なりといふり又曰れんも又後の中
疾るあわうてお死するを病なりとて虚伝乃人
又と狐狸乃教付てうらゝと出地よりて怪しき

卷之五

○人彊死

人徭死ふ時を所乃去と据て見れば物ありを捨て

經ハくハりハ時ハにハ地ハ中ハへハ入ハるハもハ今ハ出ハるハ也ハ

一 必^{かならず}とてやうな^うに^に捨^すて^て其^{その}あ^うて^て再^{また}び^に人^{ひと}を^を獲^とる

乃猶あり又疾病よりて人より擯るゝあり

今世と云癩癩と疾ひびり多し是も人より予親よりん

うふ年ありある女此疾あり年比たれべまど役けて

教月乃後此男不意又頻い不其去事意虛語此換符

被女の疾ふ少くも遠いぞ憶ふよ月床に卧其気

ふ蔵^ふにてかくあるべきまなりおそろふ

卷之五

